

たね通信

という構成上の限界はあるので、イメージは簡単に作られてしまつたものです。確かに放送枠



小さな手と手を合わせる

りも、子どもたちも、そして誰もが暮らしやすい町としていくために、繋がりを大切に歩いて行きたいと思ひます。「小さい」「こころや」「弱い」ところに向き合う、私たちが

暖冬とはいえまだまだ寒さ厳しい日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年末、福岡RKBテレビの「今日感ニュース」で、小さなたねの取組みを取り上げて頂きました。重い障がいのある子を持つ家族のこと、医療ニーズが高く過ごせる場所が少ないこと、地域の中で繋がること、そんなテーマをまとめて頂けたようで嬉しく思いました。また、色々な所から「テレビ見ました」との声も頂き、映像の力、を実感しました。同時に、映像の怖さ、も感じております。それぞれの場面を切り取り繋がられた映像やコメントは、端的で分かりやすいものではありませんが、実際の現場での課題や苦悩は削ぎ落とされてしまい、スマートに映し出された像だけで、イメージは簡単に作られてしまつたものです。確かに放送枠

ですが、映し出されたものは、一人一人(当事者・スタッフ・ボランティアなど)の思い、のほんの一部だということです。とは言っても、見て、そして、知る。ことから物事は起こっていくわけですから、小さなたねにとつて、人々の、共感、を生み出す一歩であることに違いありません。見逃した方は、インターネットの「YouTube」で「小さなたね」と検索して頂くことが出来ます。さて、新年を迎え志を新たにされておられる方も少なくないと思ひます。閉塞感の漂う昨今ではありますが、この町に暮らす障がいのある方も、お年寄りも、子どもたちも、そして誰も

小さな弱きに向き合う

所長 水野 英尚



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス (ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

たねスタッフのつぶやき

2015年を振り返ると、たねではいろいろな出来事がありました。まず、8月にリニューアルオープンした「たねカフェ」。管理栄養士の小淵さん、ボランティアの方々、本当にありがとございます。落ち着いた心地よい空間、大人の音楽、体によい食事、癒されます。それと、4月から若い介護スタッフが2名入りました。発想力、行動力、記憶力、体力、すべて頼もしい後輩たちです。私もボケてばかりはいられません。よい刺激をうけています。看護師さんにも名変わりました。看護はもとより、利用者さんとの向きあい方、その一生懸命さに頭が下がります。相談支援の業務もますます忙しい所長の悩みのたねができないように、スタッフ一同、今年も頑張っていきたいです。

渋谷 瑞恵 (介護スタッフ)



医療法人にのさかクリニック
地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林 6-23-3
電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052
E-mail: chisanatane@tune.ocn.ne.jp

後記

実家で見つけた子どもの頃の「たから箱」。中には沢山のツバキの種。別の紙箱にもわんさかある。石油が無くなると聞き、油を確保しようとせっせと集めたものだ。テレビで見る戦争も飢餓も公害もノストラダムスも口裂け女も、幼い心をざわつかせた。町内会で訪れた温泉施設でのウルトラマンショー。楽しむよりも、こんな所において地球は守れるのかと心配になった。子どもは子どもなりに深刻に物事を受け止めている。とうに大人になった私はどうだ。(E)

「いのち」を受けとめる

人は誰でも母親の体内から外に出た瞬間、そこに「受けとめ手」が居て、初めて生きることが出来ます。当然、放置されれば、その「いのち」は息絶えてしまうことでしょう。1960年代以降から、自宅で出産する人は減り、病院での出産がポピュラーになってきました。また、ほぼ同時代に、自宅で亡くなる方よりも医療機関で看取りをされる割合が高くなっていきます。「いのち」の受けとめ、「いのち」を看取る場所が、自分たちの領域（住み慣れた自宅）から離れて、病院という医療機関へと大きくシフトしていったのです。

それから半世紀を経た現代は、「いのち」の受けとめや看取りが、どう変化したと言えるでしょうか。医療技術が目覚ましく発展し、あらゆる新薬も登場し、医療に対する私たちの期待はますます高まってきています。医療機関は人の「生死」を左右する重要な場所と言えますが、しかし、「いのち」全てが「医療」で完結するものではありません。すなわち、「いのち」の「生死」だけ切り取って考えるのではなく、日常生活にある「いのち」を見出すことで、「受

けとめ手」としての家族、仲間、支援者や地域があることとして、その「受けとめ手」を創出していくことが、「いのち」が育ち、生きることになっていくのだと思います。そうした共に育ち、育てられることを通して、「いのち」本来の持つ豊かさや輝きを皆が知らされていくとき、見失われていた本来の豊かさや輝きを取り戻すことへと繋がっていくのではないのでしょうか。

昨年出版された『市民ホスピスへの道——いのちの受けとめ手になること』（春秋社）の著者の一人、米沢慧氏が、ジャーナリストの岡村昭彦氏の言葉を引用して、

・ホスピス運動は、携わるすべてが平等、対等でないとうまくいかない。
・ホスピス運動は、自分の住んでいる地域の問題から手を付けるべきだ。

・ホスピス運動は、「コミュニティのなかで一人一人が参加できるボランティア活動」

としながら、「二世紀に入って、『いのちの受けとめ手になること』がやっと切実になってきました。長寿社会、少子高齢化社会になってはじめて地域社会を基盤にした、運動としてのホスピスという機運が出てきた」と言っています。それは、私たちが「いのち」をどのように捉え、また

見出ししていくのか、「癌になったら……」とか「身近な人の死に直面したら……」とか、そういう状況になったらなどと言ってられない現代社会だからこそ、自らが自分の言葉で「いのち」を語り、捉えて行かなければならないのだと思います。

また、「いのちの受けとめ手になる」ということは、重い障がいをもつ当事者一人一人が、「親亡きあと」とどう暮らして行くのかといった切実な課題と共通テーマです。小さなたねの働きの今後のビジョンとして、誠実に向き合っていくべきことだと思います。ホスピス運動に対する米沢氏の提言を受けて、私たちに何が出来るだろうかと考えさせられています。

景気回復や経済成長はかりを声高に謳う「○○シックス」や、それらの十分な検証も無しに「一億総活躍社会」を掲げるような極めて乱暴なやり方をする国の「絵に描いた餅」に踊らされずに、市民による市民のための暮らしを考え、今こそ「自助」「互助」「共助」が実現できる仕組みづくりのため手を繋ぐべきだと思います。その時のキーワードは、「互いの弱さを持ち寄ること」ではないかと



地域の親子が参加する「寄せ植え体験」

ではないかと考えています。そして、医療・教育・福祉・宗教等々、市民レベルでの様々な組織やグループと、壁を越えて意識的に繋がり合うことも大切です。

そうしたネットワークの中で地域の課題を共有し、課題解決に向けて具体的な、今できることを実践していく。「いのち」を受けとめる町づくりのために協働する喜びを創り出すことはありませんか。

餅つき&クリスマス会 2015

昨年の12月23日、小さなたね恒例の「お餅つき&クリスマス会」が行われました。

冷たい雨の降りしきる中、外では熱気ムンムンの餅つき班&餅丸めチーム、室内では子どもたちのためにクリスマスプログラムが盛大に行われました。

そこに集った一人一人の笑顔溢れる姿を見て、老いも若きもみんなで楽しめる集いであることを実感しました。参加・ご協力を頂きました皆様に心から感謝申し上げます。





お正月休みが明け、また沢山の利用者さんがたねに来て下さっています。退屈したという顔や疲れたという顔など様々で、「お年玉もらった？」と尋ねると、みんな「にこっ、としてくれました。

家族の介護に追われ長く現場を離れていた私は、仕事の話を受けた時、勤まるのか本気で悩みました。たねの開所からまもなく5年が経ちますが、私一人だけだった看護師も4人に増え、みんなで学び合いながら仕事をしています。医療的ケアも多岐にわたり、重症度も上がって緊張の連続ですが、利用者さんから沢山のパワーを頂けるので感謝の日々です。

私には脳性麻痺の娘がいました。娘は学校が大好きでしたが、緊張が強くてスクールバスに乗れなかったため、中学3年で亡くなるまで一緒に通い、待機の生活を送りました。学校では、いつも先生方が笑顔で絶えず子どもたちに声をかけ、喋れない子どもの心に寄り添い、時には床に寝転がりながら、子ども目線で全力で支援をして下さっており、そこには頼れる看護師さんの姿もありました。私がつたねに思い描くのは、いつも子どもたちの笑顔が溢れていたあの光景です。だからいつも思います。利用者さんがたねに着いた時、ワクワクしたり嬉しい気持ちを持ってもらっているだろうか。帰る時は楽しかったねーという気持ちで帰ってもらえているだろうか。バタバタしてゆっくり関われなかった方が帰られる時は、申し訳ない気持ちで一杯になります。これは、スタッフみんなの想いでもあります。

たねは幅広い年齢層の様々な職種のスタッフが、所長を中心にチームを組んで仕事をしています。それぞれの持ち味をめいっばい活かしながら成長していけたらと思っています。

どうぞ、どんなことでもお気軽にスタッフに声をかけて下さいね。小さなたねが利用者・保護者の皆さまにとって、心休まる安心・安全な楽しい場所となれるよう、スタッフ一同、心を込めて努めさせて頂きますので、本年もどうぞ宜しくお願いします。

パン教室のご案内

小さなたねの CAFE スペースでは、水・金のランチ提供の他、講師によるパン教室が開催されています。

1月は下記の予定で開かれますので、ご興味のある方はどうぞご参加下さい。

● 日 時：2016年1月25日（月）
10：00～13：00

● 参加費用：2000円（ランチ付）



※詳細については、小さなたね（才津）まで



アイルランドの風コンサート

in 小さなたね

2月5日（金）14：00～15：00

今年も守安功さん・雅子さんご夫妻による「アイルランドの風コンサート」が、にのさかクリニック2階ホールで2月7日（日）に開催予定（前売りチケット）です。

そして、それに先立ち、これも恒例になっていますが、小さなたねでは子どもたちに向けて演奏して下さいます。守安ご夫妻の演奏と、楽しいトークを交えてのひと時です。ぜひ、どうぞお越し下さい!!

